

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590300196		
法人名	(有)SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホーム ほのか		
所在地	滋賀県長浜市加納町989-6		
自己評価作成日	令和3年1月17日(日)	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のリハビリとして散歩・買い物・家事(料理・洗濯・掃除)、に力を入れて認知症の進行を少しでも遅らせていけるように努めています。また週、3回、リハビリ体操や、マッサージ、また鍼灸師さんに出向いてもらい認知症予防のツボマッサージを個々にして頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号
訪問調査日	令和3年2月26日(金)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かでのどかな住環境に立地する「グループホームほのか」は共用型デイサービスも運営しており、地域住民の知名度も高く待機者も多い。週2回のマッサージや週1回鍼灸師の定期訪問があり全員が運動やマッサージを受けている。利用者からも生活機能向上になると喜ばれている。また訪問歯科も来てもらっており、口腔衛生管理も充実している。普段の消毒の他3ヶ月毎に施設内を徹底的に消毒する等感染予防にも力を入れている。コロナ禍で外出を控える施設が多い中、グループホームほのかは共用型デイサービスの送迎時やこの消毒時間帯を利用して全員がドライブを楽しみ季節を肌で感じるよう努めている。コロナ禍以前は自治会行事や隣接する保育園との交流も盛んでお互いが行き来し楽しんできた。職員はSNSを利用し家族と連携する等、今出来ることを考え実践につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカード上・勤務表横等、毎日職員が目につく所に貼り理念を心掛けている。 職員会議では理念に基づき話し合える場を作り共有しあっている。	利用者に対し常に尊敬の念を持ち、例えば言葉使い等職員同士が確認し合い直すように心がけている。理念に沿って利用者の出来ない事を認めつつも嫌な気持ちになっていないか会議で話し合いケアにつなげている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや近隣の保育園さんの運動会を観覧させていただいている。保育園さんから児童との交流のお誘いをさせていただき、ほのかでお楽しみ会を開催させていただいている。去年は交流はコロナで中止している。	隣の保育園とは普段から行き来し交流あり、お互いの作品が施設内にも飾ってある。近所のグラウンドで行われる地域の夏祭りにも参加し、一緒に屋台に並んで購入している。地域の清掃活動に利用者も参加し草むしり等出来る事をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に対して認知症への理解や相談のアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催している。地域包括支援センター、市の高齢福祉課、民生委員、自治会長、家族の方に声をかけていただいている。職員や利用者の概要、活動報告、身体拘束の報告を行い、参加者の意見を活用しサービスの質の向上に取り組んでいます。	地域包括や市の高齢福祉課も参加。現在の状況や身体拘束ゼロへの取組み等報告しているが運営に対しほとんど意見は出ない。議事録は回覧し、口頭でも職員に伝えている。毎回家族に案内しているが参加は無い。	運営推進会議は事業所の取り組みを知ってもらったり、地域の理解や支援を得るための貴重な機会です。利用者も含め、参加者を増やしたり意見を頂けるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の留意点やサービス提供などについて、市の担当者に連絡を取り、指導を仰いでいる。	運営推進会議に市役所高齢福祉課も参加され、関係性が出来ていることで、わからないことは些細なことでもその都度連絡して教えてもらっている。コロナへの対応等問題解決に向け一緒に考え指導してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて身体拘束の悪影響について指導を行っている。利用者さんの帰宅願望には思いの傾聴や気分転換の活動を行っている。報告義務として運営推進会議にて、身体拘束の有無、研修内容の報告を行っている。	夜間以外玄関の施錠はないが玄関にセンサーあり。どうしても出たい方には職員と一緒に散歩、ドライブにて気分転換を図る。年2回管理者による研修あり、それ以外に系列の施設での研修もある。スピーチロックを含め毎月の会議で振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや施設内研修にて虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での学習に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要書類について十分に説明を行い、家族等からの質問にも丁寧に答えながら信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン更新時、snsにて、家族の意見を聞く機会を作っている。	利用者とは1対1で話す機会もあり、要望等の本音を引き出すようにしている。できる範囲で対応している。家族には電話やライン・来所時にも確認しているが、ほとんど意見は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、提案を日々聞いており、毎月、業務会議を行い、意見交換をしている。必要時には、個別面談の機会も設けるように取り組んでいる。	意見は直接聞いたり回覧ノートに記入してもらい皆で話し合っている。職員の意見から、障がいのある方が自立して食事が出来るよう容器を変更したり、回転椅子を固定したり、浴室に手すりを設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整など就労環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の情報提供を行い、希望する研修に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ系列のつぼみとの交流・研修会を実地している。 グループホーム部会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報をもとに、本人からの話を十分に傾聴し、性格などの把握を行い、他の利用者や職員と安心して共同生活を行えるように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく語る機会を作り、良好な関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様との話し合い、様々な職種の職員と課題分析を行っています。必要な支援を考えていけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持ちつもたれずの人間関係を作れるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際は、施設での生活状況や、課題などを報告。相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の日ごろの表情、言動に注意し、心理状態を想像しながら家族、友人の訪問依頼、自宅訪問などを行い家族と一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。	車で昔働いていた場所や暮らした家の近くを通ったり、昔の話をしていく中で出てきた言葉からその場所に行ったりと、昔の記憶を忘れないよう努めている。電話したい、〇〇さんに会いたい等、できる範囲で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	机の配置を定期的に変え、職員は間に入りながら皆で会話が出来るように心掛けている。利用者様合同で参加できるレクなどを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も相談等、連絡や訪問出来る環境を作っている。また、日々の生活風景もFacebookに掲載している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、ほんにんの思いや意向を聞き、職員間で話し合い本人の思いに寄り添えるような生活の実現に努めている。自己表現が困難な方の新庄の把握に努め本人の希望、意向に沿えるように検討を行っている。	普段からちょっとした変化も見逃さないよう気を付けている。衣類や飲み物等も見てもらい自分で選ぶよう工夫している。歯が原因で食べない事があった。職員間では常になぜだろうと原因を考え対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に年代別背景を指定用紙に記入してもらい、職員は支援に役立つよう情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの様子を観察し記録に残し現状の把握に努めている。定期的にあセスメントを行い有する能力や課題について現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、介護士を中心にケアプランの作成を行っている。ケアの内容については看護師との情報交換と検討を行い様々な意見を取り入れたケアプランを目指している。	面会時に家族の意向も確認し、定期的な外泊等本人の希望に添うようプランに取り入れている。看護師の意見も参考に、職員と一緒にその人らしい暮らしを反映した計画になるよう話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録などからケアプランの見直しを定期的に行い、本人様の思い家族様の意見を活かし現状にあったケアプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々ニーズに応えることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の先生と園児との交流や夏祭り、また町内の散歩を行い地域の人々とのつながりを大切にしている。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の協力医を利用される場合は同意書を頂き、今までの病院を希望される方は往診等を利用されている。	家族納得のうえ全員が指定医を利用、毎月往診がある。緊急時でも往診があることや看護師の職員もおり安心されている。整形や眼科等の家族対応時は状態を口頭で伝えている。訪問歯科も導入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理について介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は看護職員がオンコールにて緊急時対応と健康管理について相談、助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室や外来の担当の方との情報交換を行い、適切な処遇について話し合う機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族様と話し合い、双方が納得のいく今後の方針を考えていけるよう努めている。また、重症化や終末期医療について、出来ることと出来ないことの範囲について家族に入所時にも説明している。その範囲の中から協力医療機関と連携しながらできる限りの対応を行っている。	終末期に関して入居時に家族に口頭で説明すると共に、健康状態の変化に応じて何度も家族と連携を取っている。いよいよ食事が摂れなくなってきた頃には、家族納得のうえで病院に行ってもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて緊急時対応について学ぶ機会を作っている。医療連携が出来るように連絡網を作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、また緊急連絡網等も作成して、市役所とも連絡を取り合えるようにしている。	災害対策マニュアルは整備している。訓練は消防署への通報訓練と駐車場への避難のみで、地域住民や消防署の協力、消火器の使い方等の訓練は無い。避難場所は近くにあり、普段から散歩コースとして馴染んでいる。	運営推進会議で民生委員や自治会等に協力を呼びかけるなど、地域の協力が得られるよう働きかけてはどうでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ったケアを心掛けるよう職員には指導し、職員も対応している。	利用者を人生の先輩として敬う気持ちを大切に接している。事業所独自の言葉づかいシートを使い職員皆で適切な言葉掛けを考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り利用者様が自己決定が出来るよう心掛けている。利用者によっては選択しやすいように、2択に自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者の意向に沿って、その人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、違った服をきて気分転換できるように職員が声をかけ、一緒に服を選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳を手伝って頂いたり、季節に合った食事を提供できるように心掛けている。好きな食べ物などを会話の中で聞き出し、提供することもあります。時には職員と施設にて折のお弁当の会食を行います。	毎食事業所で手作りしている。季節に応じた野菜を使うなど工夫している。誕生日などの行事では、利用者の好みの物を用意し食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し、必要な栄養、水分の確保が出来るように支援している。水分摂取の管理が必要な利用者に対しては細かく摂取量の管理を行ったりしている。嚥下状態の悪い方にはトロミをつけたり、刻み食を提供しており、なかなか水分の取れない方にはお茶ゼリーにして取り		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・介助等にて口腔ケアを行っている。また、週に1回、訪問歯科にて口腔ケアや治療のある方は治療も行っており、指導もしていただき、職員間で周知してもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンの把握を行い、また定期的な誘導やオムツ等の見直しを行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、利用者毎に適切なタイミングでトイレ誘導を実践している。便秘にならないように、水分摂取などにも気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、運動(散歩)や食事で自然な排便が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回実地している。入浴が困難な場合でも足浴や清拭を行ったりしている。本人の体調や希望によって日にちをずらしたり柔軟に対応している。 便失禁や夏など汗をかくときは、別途シャワー浴などを行っている	週に3回の入浴で、柔軟に対応している。入浴に気が乗らない利用者に対しては、入浴前からコミュニケーションを図ったりと工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やドライブ、体操を行い夜間の安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情をはさんでおり、職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや散歩・ドライブを行っている。家族様にも外出・外泊等行ってもらい気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見などの季節行事や天気の良い日は町内の散歩に出かけている。戸外での洗濯物干し、職員の用事に同行していただくなどしている。	新型コロナウイルス対策のため、計画的な外出は控えているが、近隣へ散歩に出かけたり、3か月に1度の事業所内を次亜塩素酸ナトリウム消毒時には、全利用者で外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設では行っておらず、家族さんとの外出の時に一緒に買い物に行っていたき好きなものを買っていただけるように伝えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおられ、電話がかかってきてお話されたり、家族に話したいことがあればおつなぎしています。お手紙が届く方もおられます。返信も希望されれば一緒に書いて送らせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に心がけ気持ちよく過ごせるようにしている。また、季節の花を利用者に活かしていただいて飾っている。時折、落ち着いた音楽を流しくつろげる空間作りに努めている。また、気温に応じ、随時施設内の温度湿度調整も行っている。	自然採光と人工照明を組み合わせ、明るい空間づくりに努めている。職員が定期的に生花を持参し飾っている。共有空間の清掃に努め、時間帯を考え利用者が寒くないよう配慮しながら、換気を十分に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配慮している。活動の時も親しいグループで楽しむことができる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人様混乱の無い程度に使い慣れた物を使用されている。	各居室内には洗面台が設置されており、清潔感のある室内となっている。利用者が自分で洋服を選べるように、家族とも相談し季節に応じた服を持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、掃除、配膳の家事はできる方にはしていただけるよう声掛けしている。バリアフリーとし、家具の配置を工夫するなどして安全に過ごせる環境作りを行っている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組みについて、参加参加者の意見を活用しサービスの質の向上に取り組むためにも、利用者や家族の参加がない。	利用者と家族の参加を増やし、現状の確認や意見交換を行う。	利用者には、会議がある日に参加の声掛けを行い、参加したい方には参加していただく。家族にはラインで参加を促したり、面会に来ていただくついでに参加していただけるように声掛け行う。	1年
2	35	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につける事と、地域との協力体制が不足している。	年1回の消防署の指導の元、消防訓練を行い、地域の方にも参加していただく。不審者侵入時の想定を行い、職員会議等で、全職員が災害時に的確に動けるよう話し合いをおこなう。	運営推進会議時に民生委員さん、自治会長さんに消防訓練の報告を行い参加を促す。火災時、利用者を施設の外に避難してもらった時に、見守りを行っていた体制をお願いする。災害マニュアルの元職員会議で話し合いにつけてもらう。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他()